

28 「中華医鍼様譜」について

宮川浩也¹⁾・石野尚吾²⁾・花輪壽彦²⁾

二〇〇二年、北京・中医研究院で鍼見本の「中華医鍼様譜」を購入したので、それについて考察する。

制作者は「研鍼館主楊復生氏」とあるが、楊復生なる人物については今のところ知るところがない。「中華医鍼様譜」の説明には「五〇年余に亘って各地の著名な鍼灸家をたずね歩いて得たもの」と言っているので、七〇歳は過ぎていると思われる。

前出の説明文には「この見本に収められた各種の医鍼は、楊復生氏が五〇年あまり各地の鍼灸名家を訪ねて得たものの総集編である。この三〇余種の鍼は、主に民間で使われていて、特定穴に対する専用鍼である」という。全ての鍼には名称が付いていて、合計三七種五四本が入っている。名称と本数は次の通り。()内の数字は本数。

- ① 耳穴探鍼 (2)、② 痧鍼 (2)、
- ③ 割痔鍼 (4)、④ 芒鍼 (3)、
- ⑤ 鷲牌鋒鍼 (2)、⑥ 長鋒鍼 (1)、
- ⑦ 短鋒鍼 (1)、⑧ 得心応手 (1)、
- ⑨ 起痣鍼 (2)、⑩ 達磨一枝 (1)、
- ⑪ 烙喉鍼 (2)、⑫ 小喉鍼 (1)、
- ⑬ 喉鍼 (1)、⑭ 瘰癧鍼 (1)、
- ⑮ 燔鍼 (2)、⑯ 耳尖放血鍼 (1)、
- ⑰ 痒疔鍼 (1)、⑱ 挑痔鍼 (1)、
- ⑲ 四縫十宣 (1)、⑳ 普通毫鍼 (2)、
- ㉑ 盤龍毫鍼 (2)、㉒ 蚊螞細毫 (2)、
- ㉓ 精製小兒鍼 (1)、㉔ 雙纏毫鍼 (1)、
- ㉕ 艾灸鍼 (1)、㉖ 内迎香 (1)、
- ㉗ 條承過梁鍼 (1)、㉘ 環跳 (1)、
- ㉙ 過梁環跳 (1)、㉚ 小麻酔 (1)、
- ㉛ 雙頭按摩 (1)、㉜ 按摩鍼 (1)、
- ㉝ 委中瀉鍼 (1)、㉞ 彈撥鍼 (1)、
- ㉟ 員利鍼 (4)、㊱ 隱白少商 (2)、
- ㊲ 大麻痺 (1)

円利鍼の四本の内の一本は、鍼の中頃が少し太くなっているもので、まさしく『靈枢』九鍼十二原の「員利鍼者、大如筥、且員且銳、中身微大」の「中身微大（鍼体の中頃が少し太い）」に相当し、古形を留めた鍼といえよう。

痔の鍼が五本、喉痺の鍼が二本、鋒鍼系が九本ある。合計十六本が刺絡鍼ということになり、相当行われていたことがうかがわれる。

焼き鍼系では、燔鍼が一本、喉痺の鍼が二本、合計三本である。

長鍼系は七本である。

鍼治の効果は、的確な診断、適正な手技のみならず、鍼の形状も大いに関与する。現在は、文献記載を根拠に古代九鍼を復元し、臨床に応用しているが、このように古形を留めた鍼が発見されれば、復元作業は一気に前進することになる。今後とも、中国のみならず、このような古形を留めた鍼の出現が望まれる。

(¹東洋鍼灸専門学校)

(²北里研究所東洋医学総合研究所)